

■令和 7 年 5 月 30 日 定例記者会見内容

- 1 日 時 令和 7 年 5 月 30 日（金）16:00～16:40
- 2 場 所 市役所本庁舎 3 階 第三委員会室
- 3 出席者 ○市長、総務部長、企画部長、市民部長、地域創生部長、危機管理監、
教育次長、建築課長、市長公室長
○酒田記者クラブ／各社
幹事社／読売新聞・YBC

■市長発表事項

1 令和 6 年大雨災害に係る被災空き家支援について（建築課）

市長／まず 1 点目ですが、令和 6 年大雨災害に係る被災空き家支援について発表いたします。

昨年の災害から、10 か月以上が経ちました。

あらためて、亡くなられた 1 名の方のご冥福をお祈りいたします。また、今も被災された方、仮住まいであったり、あるいは農地の復旧がまだであったり、大変な生活を送られている方にお見舞い申し上げますとともに、1 日も早く、以前のような生活を送れるように、私も全力で力を尽くしていきたいと思ひますし、ご支援くださっている全ての皆様に感謝を申し上げます。

これまでの支援をしてきたところでございますが、令和 7 年度になってから新たに設けた支援制度がございますので、ご説明させていただきたいと思ひます。

昨年の大雨による災害では、被災者の方々に様々な支援制度を設けてきたところでありますが、その多くは罹災証明書があるということが前提となっております。

つまり、罹災証明書は、住民票のある方に発行されるということで、住民票のない方、市外に住んでいて空き家を所有している方、あるいは、たまに実家の維持管理に戻ってくる方、そういった方は、このたびの災害で、その家が被害を受けても、何も支援が受けられないという状況でありました。

空き家対策といたしましては、昭和 56 年より以前に建てられた空き家については、支援制度、解体支援の制度がございましたが、このたびの災害で被害を受けた空き家というのは、古い空き家だけではなくて、既存の制度に当てはまらない新しい空き家が被害を受けて、そのままではもう危険空き家になってしまうのが目に見えているということ、あるいは、実家にたまに戻ってくる方には、引き続き戻っていただきたいということで、このたび、解体の支援、それから修繕工事を行う場合の支援を新たに設けさせていただきました。

詳しくは資料のとおりですが、受け付けは 6 月 9 日の月曜日から行いまして先着順となります。今申し上げた、床上浸水相当の被害を受けた空き家、被災したものは、過去にもう既に行っている工事についても対象といたします。

解体工事を行う場合には最大で 20 万円、修繕工事を行う場合は最大で 12 万円の補助になります。少しでも、被災された方、市外の方の支援になればということで、このような

制度を設けさせていただきました。1 件目は以上です。

2 女性防災リーダー育成講座を開催します（危機管理課）

市長／2 点目の女性防災リーダー育成講座の開催ですが、こちらの方も以前から行っている事業です。令和3年度からこの講座を実施しておりますから、もう5年目になりますが、昨年の災害を受けまして、女性の方たちも是非こういった防災の講座を受けたいと、自分も頑張りたいという方が増えていると思いますので、多くの方に参加していただきたいと思い、私の方から改めて発表させていただきたいと思います。

この女性防災リーダー育成講座ですが、災害があるたびに、女性の視点が足りないということで、よく報道されております。

国の方でも、令和2年度には、男女共同参画の視点からの防災復興ガイドラインも定めておりました。

酒田市としても、以前から避難所運営マニュアルがありましたが、そこに何とか女性の視点を加えたいということで、女性の方から避難所運営マニュアルの改訂のためのご意見をいただくために、このような育成講座を開催し、その方たちからワークショップ形式で、具体的に避難所の運営マニュアルの改定をしていただきたいということで始まったものでございます。

この避難所運営マニュアルの改訂に結びついた令和3年度の講座ですが、同じ年の内閣府の防災分野における女性の参画促進の好事例集で、酒田市の事例が掲載されておりますので、是非ご覧いただきたいと思います。大変良い講座でしたので継続してきたわけですが、昨年・今年の特徴として少しバージョンアップしたところがあります。昨年度、酒田防災コーディネーターという制度を新設いたしました。

この制度は、地域の方と一緒に、地区防災計画の策定などに関わっていただく、防災の知識を備えた市民ということで活躍していただきたいということで昨年度立ち上げております。

既にこれまで女性防災リーダー育成講座を受講した方、2年以上受講した方の中で意欲のある方に、酒田防災コーディネーターとして、登録していただいております。

令和7年度で5年目のこの女性防災リーダー育成講座は、昨年の災害を受けて、勉強したいという市民が増えておりますから、是非多くの女性たちに受けていただき、将来的には酒田防災コーディネーターになっていただければ、地域における防災も、しっかりとしたものになっていくのではないかと、広く女性たちに参加していただきたく、本日改めて発表させていただきました。

内容は、これまでと大きくは変わっておりません。全3回、半日のコースで、講師の先生もこれまでと同じ東北大学災害科学国際研究所の安田真理先生です。

50人ぐらい募集いたしますので、ぜひ関心のある女性たちに参加していただき、安心・安全なまちづくりを進めていきたいと思っております。取材方どうぞよろしくお願いいたします。

3 第 14 回湊酒田つや姫ハーフマラソン大会の出場者を募集します（スポーツ振興課）

市長／3 つ目ですが、第 14 回湊酒田つや姫ハーフマラソン大会の出場者募集についてです。こちらも毎年のことではありますが、今年はいくつか特徴もございますので改めて発表させていただきます。

まず、合併 20 周年記念ということで開催させていただきたいと思います。募集要項にも「祝酒田市合併 20 周年」と書かれております。

そして、10 月 19 日の日曜日に、「第 14 回湊酒田つや姫ハーフマラソン大会」は、過日ネーミングライツで決定いたしました「DENKI TEKKO フィールド」が会場「従来の光ヶ丘陸上競技場」で開催いたします。

6 月 1 日の日曜日からエントリーを開始いたしますので、本日改めて発表させていただきました。いくつか今年の特徴を申し上げます。

1 点目は「株式会社 INPEX」の冠協賛により開催するということでございます。こちらの冠協賛ですが、企業様からの協賛をいただきたいということで、ゴールドパートナー、シルバーパートナー、ブロンズパートナー、3 種類を設けまして、協賛企業を公募しております。

その結果、ゴールドパートナーとしての応募がございましたのが「株式会社 INPEX」様です。こちらの協賛の特典が、この冠協賛で、1 社のみ応募がございましたので、「株式会社 INPEX」の冠をつけた大会とさせていただきます。

2 つ目の特徴ですが、従来のハーフマラソンと 10 km コースに加えて、5 km の部を復活します。以前 5 km の部があったのですが、しばらく休止しておりました。改めて 5 km の部を再開いたします。

3 つ目の特徴がハーフマラソンと 10 km のコースは、出羽大橋を渡るルートに変わります。これは以前から私たちが望んでいたコースで、天気がよければ、鳥海山を望む絶景のコースになります。今年度の大会からようやく実現した出羽大橋を渡るコースになりますので、多くの皆さんに、参加していただいて楽しんでいただければと思っております。

4 つ目は、参加料です。昨年度の大会より 500 円値下げをいたして、一般 5,500 円でございます。これも参加しやすい金額にして、市民はもちろん、市外の方からも大勢参加していただいて、素晴らしい大会にしていきたいと思っております。

5 つ目は、第 6 回大会から協力いただいているゲSTRANナーの野々村真さんにまたお越しいただき、加えて箱根駅伝で毎年活躍している東洋大学陸上競技部のメンバーもお迎えする予定でございます。

このように、酒田市合併 20 周年記念にふさわしい、素晴らしい大会になりますように、これから準備を進めて参りたいと思います。私からは以上でございます。

■市長発表事項に関する質問

記者／被災した空き家、床上浸水相当の被害を受けた空き家ですけれども、酒田市ではど

れぐらいあると想定されているのかと、そういう数字をもし持ち合わせているのであれば教えていただきたいのと、この新たな支援制度は当初予算のときからお話あったと思うのですが、改めて予算をいくら用意しているのか、その辺りを教えてください。

市長／予算の方だけ私がお答えした後、件数など説明いたします。予算の方は解体工事、修繕工事、それぞれ 10 件分で予算を組んでおります。

建築課長／件数ですが、正直把握しておりません。調査が入らなかったものですので把握していませんが、住宅の支援制度を受けている間にさまざまな声が聞かれてきたのが実情でございます。その声をかんがみて、両方とも 10 件程度を見込み、制度を設けさせていだいたということでございます。

記者／今おっしゃったところで、いろんな支援されている中で、こういう空き家に対する解体などに対する支援が欲しいという声が聞こえてきたことから、制度を設けたという理解でよろしいですか。

建築課長／当初の申請時から、被災したこういう空き家についての支援制度はないのか、または罹災証明がなぜ出ないのかという問い合わせが、災害当初からありましたので、国の制度、市の制度を説明しながら対応してきたのですが、それらの空き家も独自に対応させていただきたいと、予算化したところでございます。

記者／ありがとうございます。

記者／女性防災リーダーの件で、昨年度コーディネーターとして制定されたということですが、現在何名いらっしゃるのでしょうか。

危機管理監／現在 14 名です。

記者／さらに増やしていきたいということですね。ありがとうございます。

引き続きハーフマラソンですが、東洋大学陸上競技部のメンバーを招致するというお話でした。地元出身の方はいらっしゃるのでしょうか。

スポーツ振興課／メンバーについては、近くなりましたら大学の方からどの選手を派遣するか連絡がありますので、まだ決定していない状況にあります。ただ人数については、4 人ほど来ていただきたいということをお願いしております。

記者／空き家の支援制度の関係で、私も不勉強で恐縮ですが、これは市の独自の施策ということでしょうか。

市長／そうでございます。

記者／ありがとうございます。あともう 1 点、いただいた資料の中で、被災した空き家（住宅棟に限る）とに記載があるのですが、これは住宅のみが対象ということでしょうか。例えば倉庫なども対象となるのか、外れるのか、そのあたり教えていただけますでしょうか。

建築課長／住宅のみとなります。車庫や物置は引き続き対象となりません。

記者／ありがとうございます。

記者／ハーフマラソンの件なのですが、今回、冠協賛で INPEX さんが使われたということなのですが、タイトル、大会の名前を書くときに、INPEX の名前はどこに入れたらよろしいでしょうか。

スポーツ振興課／INPEX 様の名前については、第 14 回の前に入れていただきたいと思います。おります。「INPEX 第 14 回湊酒田つや姫ハーフマラソン大会」となります。

■代表質問

1 風力発電の点検状況と運転停止の影響について

① 酒田市十里塚風力発電所の点検状況について

② 当該発電所の運転停止の影響について

記者／酒田市十里塚風力発電所の件でございます。秋田の事故を受けて、停止して点検に入っているということですが、その点検の現在の状況と、かれこれ 3 週間ぐらい停止されておるということで、停止している間の影響というのは現在どのようになっているのか、一応 2 点を、関連していましたので併せて質問いただきます。

市長／酒田市十里塚風力発電所のまず点検状況について、これまでの経過を確認させていただきますと、今月の 5 月 2 日に秋田市の海浜公園内で発生した、陸上風力発電設備のブレード、羽の部分の落下事故を受けまして、5 月 9 日の午前 11 時に、酒田市十里塚風力発電所の運転を停止いたしました。

この事故のあった陸上風力発電設備は、酒田市の十里塚風力発電所と同じ大きさのエネルギーコン製の設備ではありますが、型番は異なっております。つまり内部構造や材質は異なるものになっています。

なお、5 月 7 日に当該発電所、十里塚風力発電所の主任技術者が実施しました外観の点検では、異常が確認されておりません。このたびの運転停止は、予防的な措置ということになります。

現在、このたびの事故を踏まえた緊急点検、具体的にはブレードの表面点検と内部点検を実施すべく、点検事業者である、株式会社日立パワーソリューションズと調整しているところです。これらの点検によって異常が確認されなかった場合は再稼働いたしますし、また異常が確認された場合は対策を実施した上で、再稼働となる予定です。

次に運転停止の影響でございます。影響という場合に幾つかの観点があるかなと思いますけれども、事業収支、お金に関する部分の影響で申しますと、再稼働の時期は未定ですが、運転は今停止しております。売電収入がその分なくなるということですから、貴重な自主財源となるものが目減りすることになります。

ただし、風力発電事業全体の経営につきましては、現時点では、風力発電施設管理基金の残高が十分にありますので、風力発電事業の経営としては、影響は非常に限定的であると考えております。

2 つ目の観点といたしまして、小中学校に供給をするという環境価値活用に対する影響ですけれども、4 月 1 日から、酒田市十里塚風力発電所で発電した再エネ電力の環境価値を、酒田市内の小中学校などで活用する取り組みを行っております。

ただ、その年間発電量が、小中学校等で使用する年間消費を大きく上回っておりますので、このたび停止しておりますが、そういう意味では影響がない、停止してももう十分

な発電量がありますので、これまでどおり、学校に環境価値を提供できていると言って問題ないものと捉えております。私からは以上です。

記者／確認ですが、各小中学校で使う部分よりは発電量が上回っているのですが、この後、全体的には、十分満たしているということでしょうか。現在は東北電力から再生エネルギーの会社に契約が変わっているわけですが、そちらは直接つながっているわけでもないですから、電力会社経由の契約ではあるけれども、支障も今のところはないという理解でよろしいですね。そうしますと使用料金などについても、東北電力と契約するよりは若干下がるという見通しだったところについても、特に問題は今のところなさそうということでしょうか。

地域創生部長／今申し上げました環境価値の活用につきましては、1年間で発電された中から、再エネ電力としての、環境価値を証明する、非化石証明というものがあるのですが、その制度上は、あくまでも同時同量でなければいけないという規定はありませんので、4月分のところが、今月分に回ってくるといった理論的な考え方がありますので、特に影響はないという理解をいただければと思います。

記者／おそらく分からないところだと思うのですが、日立さんと点検の時期については調整しているということですが、いつぐらいになるのかというところが一番興味あるところで、例えば、1年とか、長期化するようなことがあるのか、そのあたりの見通しみたいなものを少しでも言葉としていただけるとありがたいのですが。

地域創生部長／現在、他との状況等を確認しながら調整はしているところですが、目途としては、可能であれば6月ぐらいにはできるのではないかとこの見込みは持っております。なお、正式なものは来ていないのですが、そのぐらいの時期であればよいと酒田市では思っております。

■フリー質問

1 山形県の人口が100万人を下回ったことに対する所感と今後の人口減少対策について

記者／本日山形県の人口が100万人を下回ったということで知事もお話しされていましたが、酒田市は人口減少ということで、いろいろ対策はされているのは承知の上なのですが、今回100万人を下回ったことに対する所感と、改めてこれからどういうふうに人口減少対策へ取り組んでいくのかというところの言葉を少しいただきたいです。

市長／実は本日、山形県庁に行って参りまして、知事に酒田市の重要事業要望をしてきたところです。その際に午前中、発表したんですというお話もございましたけれども、知事もいつもおっしゃっていらっしゃいますように、負のサイクルに陥るのが一番よくないと思いますので、今日もクルーズ船の要望などして参りましたが、交流人口を増やしていくことによって、ここに住む人たちの安心・安全、あるいは豊かさを維持・向上させていくことは可能だと思っておりますので、引き続き、進めて参りたいと思います。

2 山形新幹線の庄内延伸について

記者／改めて、今回山形新幹線の庄内延伸について、市長はどういうふうな基本的な考え方を持っているのか。そこからまず少し伺いたいです。

市長／私もそうですし、酒田市のスタンスは変わっておりません。本日も知事に、酒田市の令和8年度重要事業要望に向けてして参りましたけれども、その要望書の中にも、山形新幹線を庄内まで延伸するという項目は入っておりますので、引き続き、推進して要望して参りたいと考えております。

記者／ただ、これまでの取り組みということと言うと、2021年の9月に、陸羽西線高速化促進市町村連絡協議会という推進組織というのがあったのですが、これが解散になっていきます。前の市長がそういう決断をしたわけですが、そうすると、推進組織として、酒田市、これには酒田市だけではなくて、庄内町、遊佐町、戸沢村、1市2町1村が入っていました。そういう形で遊佐は少し違うのですが、沿線自治体でそういう組織を作っていたわけですが、それを解散していると。引き続き実現に向けてと言う割には、どうも熱が、何かそういった組織体制から、非常に脆弱だなという気がするのですが、そのあたりについての認識はどのようなのでしょうか。

市長／令和3年9月、2021年の9月でしょうか。私も副市長でおりましたときですので覚えておりますが、組織を解散した理由としましては、そのとき山形県はオール山形でフル規格の奥羽・羽越新幹線の整備実現の取り組みを進めていたということ。

それから、山形新幹線の庄内延伸、あるいは利用促進につきましては、山形県知事を会長とする山形県鉄道利用整備強化促進同盟会、あるいは新庄市長を会長とする陸羽東西線利用推進協議会という協議会もありまして、現在もこの2つはございますけれども、その中で、活動していたということもあり、解散となったと理解をしております。その後、庄内町は首長もお代わりになったこともありますし、状況も変わってきていると思います。

改めて今回、知事の思い、陸羽西線だけではなく、庄内で進めている空港なども含めて、さまざまな取り組みに非常に前向きなご発言があったということ、庄内の住民は心強く思っておりますと挨拶して参りました。それを受けて私たちとしてどのように、運動、活動していけるか、今、これから改めて考えて参りたいと思います。

記者／今のは、交通インフラ全体のという話で捉えていいですか。それとも鉄道の話と捉えていいですか。

市長／特に鉄道についてはそうだと思います。おっしゃるとおり、例えば空港につきましては、いつも引き続き活動をやっておりますが、陸羽西線につきましては協議会を解散したではないか、というご指摘もありました。ただ要望書には引き続き記載しておりますので、こういった形で運動を進めていけるか、検討しているところです。

記者／それは、庁内でということですか、それとも、経済界含めていうということですか。

市長／まず庁内、その上で経済界、酒田市全体として、どのように進めていくのか、関係者で検討していきたいと思います。

記者／はい、わかりました。